

めりくり！ あっという間に 11 月が終わったと思ったら、もうクリスマスが近づいてきたね。クリスマスといえばサンタですが、むかしアメリカで、バージニアという女の子が友だちに「サンタなんていやしないのさ」とばかにされて、新聞社に「サンタクロースはいるの？」と手紙で尋ねたことがあります。新聞社はその質問に真剣に答えて、「妖精が見えないけれどいるように、サンタもいます。信じる心、想像力、詩、愛、夢見る気持ちがあれば、見ることができます」と回答しました(『サンタクロースっているんでしょうか?』)。普段から天使だのユニコーンだの言っているぼくもまったく同感で、たとえサンタを信じられなくなっても、「世界のどこかにみんなを幸せな気持ちにさせる存在がいるかもしれない」と思うほうが幸せであると思っています。

オススメ本紹介！

『シークレット・オブ・シークレツツ』上下

ダン・ブラウン KADOKAWA

史上最も売れた本の 1 冊である『ダ・ヴィンチ・コード』を含むクロバート・ラングドンシリーズ、8 年ぶりの最新刊！

象徴学を専門とする著名な大学教授ラングドンは、時の止まったミステリアスな街・プラハを訪れていた。最近恋仲になつた気鋭の純粹知性科学者キャサリン・ソロモンの講演を聞くためだ。講演でキャサリンは、人間の意識にまつわる驚くべき発見について解説した著書を発表予定だと話した。それは、何世紀にもわたって人々が信じてきた通念を脅かしかねないほど斬新な内容だった。講演の翌日の早朝、日課のスイミングを終えホテルに戻ろうとした途中、ラングドンは橋の上で異様な黒ずくめの女と遭遇する。昨日の講演で話題になった放射状冠（光輪を表している）をかぶって、手には銀の槍を持って、死の匂いをさせていた。それは、キャサリンが昨晩うなされた悪夢に出てきた人物だった。彼は死の匂いに恐怖を感じ、ホテルから全員脱出するように支配人に向かって叫び、火災報知器を鳴らした。そのまま部屋へと走ると、キャサリンは不在だった。一方そのころ、NY の出版社ペンギン・ランダムハウスでは、最高レベルのセキュリティで守られていたキャサリンの原稿に、何者かがアクセスした痕跡が見つかる…。果たしてラングドンはキャサリンを見つけ出すことができるのか？

『火星の女王』 小川 哲 早川書房

早川書房創立 80 周年記念作品にして、NHK放送 100 年特集ドラマの原作！

人類が火星に移民を始めて 40 年。惑星間宇宙開発機構（ISDA）を中心に、さまざまな国家や企業がスポンサーとなって 13 のコロニーが完成した。植民者は十万人ほどいる。このままどんどん拡大していくのかと思いきや、最後のコロニーが完成してから十年余りで、ISDAは「地球帰還計画」を採択せねばならなくなる。火星が儲からなかったのだ。ISDAにはこれ以上、火星を支援する余裕がない。撤退である。ISDAは火星への投資を減らし、いずれは植民者すべてを地球に戻すつもりだった。

そんな状況を、ある世紀の発見が一変させる。地球外生命体の存在を信じて、火星で研究を続けている生物学者リキ・カワナベ。彼が火星の地底湖から掘り出してきたありふれた物質・スピラミン。その一部が、結晶の形を変える性質を持っており、それと同時に遠く離れた場所にあるスピラミンが形を変える。スピラミン同士のあいだで光速を超えた何らかの情報伝達が行われているのではと気づいたのだ。

「— 私たちは、新種の生命体を発見したと考えています」。

一方、2 年に一度の地球行きの大型宇宙船・FTL に乗船しようとしていた、盲目の学生・リリが誘拐される。リリは ISDA の要職にあるタキマの娘だ。

『君のクイズ』 小川 哲 朝日新聞出版

前代未聞のクイズ・ミステリーも映画化決定！「面白すぎる!! 驚くべき謎を解くミステリーとしても最高だし、こんなに興奮する小説に出会ったのも久しぶり」と、頼まれてもいないのに、自分から帯の推薦コメントを書かせてと伊坂幸太郎さんがお願いしたという大傑作です！

生放送のクイズ番組決勝戦。7 間先取の短文早押しクイズで「世界を頭のなかに保存した男」本庄 純 と対決した三島玲央は、6-6 あと一問で優勝というところまで追い詰める。ところが本庄純は、なんとまだ一文字も問題が読まれぬうちに回答し正解し、優勝を果たすのだった！ しかも、正解は「ママ、クリーニング小野寺よ」！本来読まれるはずの問題は、山形県のローカルクリーニングチェーンの名前を問うものだった。いったい彼はなぜ、正答できたのか？ 三島は正解へと迫っていく。魔法の痕跡を、あるいはヤラセの痕跡を見つけようとして…。

いったい、どんな映画になるのでしょうかね？

☆『きぼーる』 キボリノコンノ 白泉社

ひさしぶりに「ねえ、みんな、見て見て！」と言いたくなる絵本に巡り会いました。この絵本に出てくる美味しいそうなもの、レモン、唐揚げ、バタートースト、いちご…すべてが木彫りでできているのです。しかも、本物と見分けがつかないくらいに超リアルに！主人公の「きぼーる」は彫刻刀の3人組です。3人は木を掘るのが大好き。木を見れば、何かを作り始めてしまいます。「これでよしと」木目も露わなレモンができました。これでは、まだ木です。ところが、お友だちの「えのぐさん」と「ふでさん」の手にかかると、あ～ら不思議。もうレモンにしか見えないです。間違えてイチゴをスイカのシマシマ模様に塗ってしまってイチスイカにてしまったり、つぶつぶのトウモロコシ模様にして塗ってしまってイチモロコシにてしまったり、失敗することもたまにはあります。さて、最後にみんなが作ったものは…？ きぼーるとお友だちがカワイイです。

実はキボリノさんは、氷や生卵など透明なもの（！）や、ビールのジョッキやコーヒーを注いでいるところなど液体なども木で再現するもっとすごい技も持っているのですが、今作では出し惜しみしたみたいですw ほかの超絶技巧も見たいというひとは、作品集『キボリアル』を。脳がバグります！

『61歳で大学教授やめて、北海道で「へき地のお医者さん」はじめました』 香山リカ 集英社

「へき地医療の仕事がやりたい」。精神科医、香山リカ。大学教授もやりながら、何冊も本を出し、マスコミでも活躍していた彼女。最近、姿を見かけないなあと思っていたら、いまではもう61歳になって、大学教授を辞めて、ほとんど精神科医も辞めて、北海道で「へき地のお医者さん」になっていました！どうしてそうなった!?を追いかけたのがこの本です。人生の大転換が語られます。が、これがちっとも深刻そうではないです。なんだかとっても楽しそう。それもそのはず、彼女が勤めることになったのが、むかわ町穂別診療所であったからです。そこは、日本産恐竜全身骨格で最大のカムイサウルスが出土した恐竜の町でした。偶然にも彼女がネットの求人で探し当てたのが、

「恐竜博 2019」で会って一目惚れしたカムイサウルスの出土した場所だったのです。へき地医療に必要なのは、頑丈ながらだと車の運転能力（35年も運転していなかった）と総合診療研修だそうです。「どんなことが待っていようとも、『これでよかったです』とそのときの自分にうなづきながら、変化を楽しみつつこれから日々を生きていくってほしい」。

『世界はきみが思うより』 寺地はるな PHP研究所

「だって、世界ってそんなにやさしくないじゃないですか」。高1の冬馬は、他人がつくった料理が食べられない。6歳のときに離婚した父親が原因だ。離婚の理由は父が会社の部下と恋愛関係になり、その部下が父の子を妊娠したせいだ。一緒に暮らしていたころ、父はときどきお菓子を持ち帰ってきた。ぜんぶ手づくり、すごいだと自慢げに。冬馬はそれらを誰がつくれていたかを知った。以来、他人の手料理を受けつけなくなってしまった。「食べたものがその人をつくる」が彼女の口癖だったそうだ。

冬馬の初恋は、小3のときに転校してしまったフィリピン人のハーフのあっくんだった。小2の道徳の授業で、「どんな性別のどんな人を好きになるか、あるいはならないかは人によって違うのです」と教わったときに、あっくんは隣の席の子と肘をつき合って大笑いしていて、あっくんのことが好きなことは何があっても絶対に隠さなきやいけないことになった。転校してしまって以来、誰かを特に好きになることはぜんぜんなくて、嘘をつかなくていいのは、すごく楽だった。

ところが、冬馬は「難病を抱えた美少女」を妹に持つ、同級生の時枝くんと仲よくなり、世界への信頼を回復していく…。

『この本を盗む者は』 深 緑野分 KADOKAWA

クリスマスシーズンに向けて、アニメ映画化！

「ああ、読まなければよかつた！ これだから本は嫌いなのに！」 読長町の生き字引の御倉嘉市さんは、大正時代から無数に集め続けた本を「御倉館」として町民に開放していたが、それを引き継いだ娘のたまきは、一度に二百冊の稀観本が盗まれているのを見て激怒し、御倉館を閉鎖して建物のあらゆる場所に警報装置をつけた。それだけではなく、書物の一つ一つに奇妙な魔術をかけたらしい。この本はたまきの孫、御冬の物語。高校生の彼女は、本が好きではない。蔵書が盗まれ、御冬は残されたメッセージを目にする。「この本を盗む者は、魔術的現実主義の旗に追われる」。すると、真白という白い髪の少女が現れ「呪いが発動したから、本を読まなくてはいけない」と言う。いやいや本を読み進めたところ、街は物語の世界に姿を変えていた…。

◎「しおりコンテスト」のしおりができあがりました！
大好評配布中！ ほしい人は、図書館のカウンターまで！